

授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

1年生前期の授業であるので、前半は、「知的障害者の教育課程・指導法」の内容とともに、特別支援教育の基本に関わる内容も講義し、2回目以降はほぼ毎回前授業の内容の小テストを行って、基本的な事項の習得を促した。授業資料は、学生が効率的かつ主体的に学べるよう、PPT資料、小テスト(事前に配布し、暗記を促す)、授業に関わる新聞記事、授業に関わる文部科学省等の公的HPなどを用意した。後半は、映像鑑賞後のグループディスカッション等、アクティブラーニング的な手法も取り入れ、学生同士で学びを深められるよう工夫をした。また、学生が視野を広めることができるよう、ゲスト講師(知的障害者支援のNPO法人スタッフ、障害者自立支援のNPOスタッフ)の講演の回も設けた。

学生の授業前の事前学習を基に行っている。

できるだけ具体例を挙げ、興味を持てるように、また、できるだけ系統だった知識を提供できるよう心がけた。また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行ったり、理解を深めるため必要に応じて計算をさせたりした。

できるだけ具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、病態生理についても適宜説明した。また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

・いずれの科目についても最新の医療情報を収集し、常に新しい情報を取り入れた授業内容になるように工夫しました。
・救急処置に関しては、学校現場での対応を想定して、「児童生徒に声かけをしながら処置を行う」ようにと指導しました。また、実際にAEDを使用して助かった方、AEDを使用しなかったために助からなかった方のDVDを観て、学校現場で迷わずにAEDを使用して救命処置ができるように意識づけをしました。
・臨床実習Ⅱに関しては、保健医療現場での学びを常に学校現場に置き換え、養護教諭としてどのように活かすかを考察するように指導しました。

幼稚園教育の全体像と対比させながら保育内容(環境)について説明を進めている。第1講で全体のガイダンスを行い、第2講で、近隣の洲原講演に散策に行き、幼児の気持ちに引き込んでいる。講義期間の途中で中学校教育実習が行われるので、この時期に、保育内容(環境)の指導実践を教科書から事例を取り上げて、各自に行わせている。最後に、3回目のレポートとして、幼稚園教育要領、保育内容環境の指導内容11項目のうちから1項目を取り上げて、その内容について報告をさせている。レポートの配分はよいと思っていたが、学生にとっては容易だったようで、51.6%の学生がこの授業のための週当たりの学習時間を「なし」と答えている。小生にはかなり不思議な結果である。

理論と実践の統合を目指して、多くの保育実践映像や保育園参加を基に、理論と結びつけて授業展開するよう心がけました。学生個々の気づきや発見をなるべく共有し合えるように、グループディスカッションや発表も取り入れました。

集中講義形式であるため、授業で扱う内容と分量については工夫をしました。特に1コマあたりで教える内容を減らし、その分、学生間の協議等を行う時間に充てました。また、学生からのコメントをワークシートで集約し、質問に回答する時間を午後に設定しました。これにより、学生の集中力が低下しやすい時間帯も学修が確保できたと考えます。

講義科目はweb講義を使った反転授業、演習科目はグループワーク、ディベートなどを取り入れてアクティブラーニングとしている。

・こちらが教えたいことよりも、学生が学びたいことを中心に講義を進めるように心がけています。
・学生からの発言がなかなか出ないときは、“雑談タイム”をとって2、3人で自由に話してもらい、そこで話したことを全体にシェアしてもらうようにしています。
・ミニレポートを全員分コピーして学生に配付し、お互いが考えていることが分かるようにして、ディスカッションを行っています。

SPSSという統計ソフトを用いてデータ分析や統計処理を行う授業なので、実際のデータを用いて分析し、その結果をどのように記述するのかをわかりやすく伝えるように心がけた。

1. 講義では、教科書の内容にプラスして、なるべく最新の知見を入れて講義している
2. 講義では、レジュメではなく、なるべく資料の中から読み取るもの(新聞記事や、法律の全文)などを用意している
3. あらかじめ、予定表を配布して、基本的にその時間通りの進行としている
4. 採用試験を意識して、そのために必要な内容は講義に盛り込んでいる
5. 実習では、自作のテキストを用意して、その手順に従って各自が作業を行い、その時間内でレポートを提出させている
6. 実習の内容は、卒業後の学校現場や卒業論文制作で生かされる実践的な内容にしている

・様々な手法を用いて、授業のほとんどをアクティブ・ラーニングで展開し、キャリア発達に必要な基礎的・汎用的能力の向上につなげている。
・グループを頻繁に入れ替えることで、人と関わる力の育成につなげている。
・ICTを活用して、職業調べを実施している。
・職業レディネステストを実施し、その結果を即時フィードバックしている。
・キャリアモデルとして、外部講師(NPO関係者)を招き、講演とワークをしてもらっている。

学生が興味をもつように、身近な昔話を題材として選び、歴史的な変遷を踏まえた授業になるよう、できる限り古い絵本資料を提示するようにしました。その上で、子どもたちがその昔話を享受して、なぜ?と思う部分を調べたり考えたりさせるようにしました。また、実習などで生かせるよう、現代の資料についても、保育の現場で多く取り上げることの多い絵本や映像資料をなるべく多く提示するようにしました。

出来るだけ、学生自身に実施させることにより、知識を深めさせるように努めている。

理論を学び、知識を身につけることも重視しましたが、ロールプレイングやワークを取り入れ、体験的に学べるよう工夫しました。また、学生同士の意見交換の時間を設けることで多様な理解の仕方を共有できたと思います。

夏季集中で2日間ということもあり、できる限り短期間に多くの人と関わることができるよう工夫しています。また本講義では、実際に学生自身が活動をするを通じて自身の将来を考え、キャリア形成できるような機会となるよう、様々なワークを取り入れて実施しています。

キャリアデザイン I から継続して受講することで、グループで働くことの意味を体験的に学習できるよう活動をいくつか実施しました。またゲスト講師の方をお招きすることで、社会(特に企業)における実情を学ぶことができるよう、配慮しました。

2年生と4年生(それも専攻が異なる学生)が同時に受講する科目であるので、学年による経験の違いが視野の広がりにつながるよう、活動する際のメンバーを工夫しました。また、既習内容にも差があることを踏まえ、そのギャップをあまり感じないように、それぞれのもつ強みに焦点をあてて授業を展開しました。

授業内容のテーマごとに担当者(2名一組)を決め授業の3週間前から事前指導を行い、担当者は調べ学習を中心に授業準備をする。

授業当日は担当者が授業者となり、他の学生に指導を行う。内容の不足分や現場の実際例等は教師が補足する。その後現場に近い場面設定をし、実習を行う。

実際の研究で行われた統計処理を疑似体験することにより、社会調査における統計処理についての理解を深めようとした。具体的には、実際に行われた研究の結果を部分的に再現できるような人工データを用いて、社会調査における統計処理の演習を行いました。

ほぼ毎授業時にテーマを提示しショートレポートを提出してもらい、学生さんたちの考えに触れる機会とした。また全員にコメントを記すことで授業担当者としての考えや思いを伝えた。

授業方法について、近年、アクティブラーニングやグループワークなどが盛んに取り上げられていますが、「お話の面白さ」という点から、通常の講義形式の意義を見直してみてもいかがでしょうか。講義形式が単なる知識伝達ではたしかにつまらないですが、「お話＝語り＝ナラティブ」という面で見れば、非常にポジティブな面が多々あるように思われます。それは、「カウンセリングにおいて、ただお話しをするだけでよくなっていくこと」ことや、「面白い本は、一人で座って読んでいても豊かに創造的世界を広げてくれる」のに似ていると思います。

社会教育活動におけるリスクマネジメント能力を鍛えられるよう、担当教員が実践現場から抽出した事例を用いて実践的リスクマネジメントスキルを学べるようデザインした。

学習内容の柱は現代的な健康問題に対応して求められている養護教諭の能力を身につけることである。独自の工夫といえないが、演習であることから、授業への出席、参加を大切に。グループワーク、ロールプレイング、ゲーム、模擬体験など多くすることで具体性を図った。学生の発信力や観察力、自己存在感が向上するよう、意見や感想を言う機会を多くした。授業の場で感じ、考えることを大切に、宿題のない授業とした。